Journal of Asian and African Studies, No.96, 2018

【論　文】

# ロシア所蔵「観心十法界図」の西夏文について*

荒川慎太郎・橘堂　晃一

# Tangut Text Printed in the "Illustration of the Ten Realms of Mind Contemplation 観心十法界図" in the Collection of the State Hermitage Museum, Russia

Arakawa, Shintaro and Kitsudo, Koichi

The collection of the State Hermitage Museum (St. Petersburg, Russia) includes a large number of Tangut items. Originally, an Imperial Russian expedition commanded by Colonel Kozlov discovered the items in the ruins of *Khara-khoto* (Inner Mongolia, China), one of the fortified towns of *Xixia*. Most of the items are fine art objects and some of them contain texts written in Tangut. These items include the so-called "Illustration of the Ten Dharmadhātu of Mind Contemplation" (観心十法界図), in which four holy states (Buddha, Bodhisattva, Pratyekabuddha, Śrāvaka) and six types of entity (deva, human, asura, animal, hungry ghost, Hell) are illustrated and described in detail in Tangut. The illustration is quite valuable for comparative studies between Tangut and Uighur Buddhism. It provides a comprehensive explanation of the world and an explanation of its ten realms. In this study, we examine this part of the Tangut texts. In Section 1, previous studies (the caption by Samosyuk and the study by Kii) are introduced, and some new remarks are added by authors. In Section 2, the entire texts are deciphered; it is more than 90 lines long. The Tangut scripts, reconstructed forms of the syllables, glosses, and a translation into Japanese are presented line by line. In Sections 3 and 4, we compare the studies with the Chinese text (*Yuandun guanxin shifajie tu* [円頓観心十法界図]) by *Zunshi* (遵式) and linguistic remarks on the Tangut sentences in the texts. The texts contain not only Buddhist but also Confucian views at several points. We conclude that the Tangut version was translated from one of the Chinese versions, which is unidentified at this stage. On the matter of Tangut linguistics, we observed unique samples, in particular the use of negative prefixes and the co-occurrence of certain prefixes and verbs.

**Keywords:** Tangut, Tangut items, Illustration of the Ten Dharmadhātu of Mind Contemplation, Khara-khoto, Hermitage Collection

**キーワード：** 西夏語，西夏文字文献，十法界図，カラ・ホト，エルミタージュ

＊本稿の執筆にあたっては 2 名の査読者から有益なご助言をいただいた。記して感謝いたします。

0. はじめに
1. 資料について
2.「観心十法界図」西夏文テキストの解読
3. 西夏文と漢文の表現・内容の比較検討
4.「観心十法界図」における西夏語
5. おわりに

## 0. はじめに

ロシア，エルミタージュ美術館には，帝政末期コズロフ探検隊収集の西夏文物が多数所蔵される。大半は美術品とみなされるものであるが，少なくない分量の西夏文テキストを伴う資料もある。本稿で扱う資料は，西夏文字の「心」字を中心に四聖（仏，菩薩，縁覚，声聞）と六凡（天，人，阿修羅，餓鬼，畜生，地獄）を描いた，いわゆる「観心十法界図」である。図には，欠損部もあるものの各界を詳細に説いた西夏文テキストが付されている。図像も西ウイグル国時代（866～1211）のベゼクリク石窟の壁画資料との比較検討に値する重要なものである[1)]。本稿では，1 節で先行研究とその問題点を述べ，2 節で西夏文テキストの全文を録文化し，推定音・グロス・訳注を加えた資料を提出する。3 節で，遵式（964～1032）の「円頓観心十法界図」の漢文テキストと西夏文テキストを比較検討し，類似点と相違点を述べる。4 節で西夏語学の見地から本資料の言語特徴を述べる。5 節で簡潔に結論をまとめる。

## 1. 資料について

### 1.1 資料と先行研究

当該の資料は，ロシア国サンクト・ペテルブルグ，エルミタージュ美術館に所蔵され，X-2538 という整理番号を付されている。

当美術館の常設展示ではないものの，2008 年，特別展で公開され，図録 *Пещеры тысячи будд. Российские экспедиции на Шелковом пути. К 190-летию Азиатского музея: Каталог выставки* にカラー写真とキャプションも発表された（Самосюк 2008ab, 及び同図録キャプション Самосюк 2008c 参照）。この Самосюк によるやや長めのキャプションと，Кий 2012 という論文が先行研究といえる。

はじめに先行研究の紹介とともに本資料の記述を見ていきたい。まず Самосюк によるキャプション（Самосюк 2008c: 362）より基本情報を述べる。以下荒川による翻訳（適宜改行を詰めた。また【 】で説明を補った）。

「(No.) 245. 仏陀，地蔵菩薩，観音菩薩　再生の六道」[2)]
「紙，墨．印刷物．62.5×42.0 cm．カラ・ホト．12–13 世紀初め．1933 年ロシア博物館民族学部局からエルミタージュに収蔵（蒙古・四川の探検　1907–1909 年）整理番号　X-2538」

「絵入り西夏語のテキストは，おそらく，「十輪経」に基づく。「十輪経」（大正 No. 410）とは 7 世紀に玄奘によって翻訳され，地蔵信仰の普及に影響した。「十輪」とは，仏法の完全な知

1) ベゼクリク石窟壁画の図像との比較については別稿を用意している。橘堂・荒川 forthcoming 参照。
2) タイトル原文は“245. Будда, бодхисаттвы Кшитигарбха и Авалокитешвара. Шесть путей перерождения”。

識をあげる仏陀の十力のこと。（完全な名称は「大乗大集地蔵十輪経」[3]）

真ん中には西夏文字で「心」，その上には仏陀がいて，仏陀の右側には，地獄の苦痛から解放する地蔵菩薩で，上の右側には，慈悲と同情の観音菩薩である。地蔵は，上に六輪のある錫杖（その菩薩の特性である）を持つ修道士の姿に描かれている。

地蔵の主な役割は，地獄へ落ちた衆生の皆を苦痛から救うことである。

西夏文字の「心」から線が出て，絵を部分に分ける。各部分には，生きていた時に行った善行，あるいは悪行によって，一切衆生が再生する道が描かれている。【中段の】上右と上左の部分には，神の道，すなわち「聖僧」と「天帝」の姿に象徴される。その下の右の部分【仏の方から右】には，鬼の道，すなわち阿修羅道と餓鬼道である。左側【仏の方から左】には，男と女の姿で表される人道と，畜生道である。

下方中心部は，地獄で罪深い人が再生する第六の道である。中心には，地獄の君主の閻魔と，罪人がした善行と悪行を記録している助手の二人と，地獄での，罪人の苦痛の光景が描かれている。

【閻魔から見て】右側には“被告”である老人が立っている。老人は手に何かを持っている。この物は，おそらく，老人が裁かれる「罪」である。地蔵が居るので，老人は地獄の苦痛から救われるはずである。（西夏語テキストの読解に関してはクチャーノフ[4] にお礼申し上げる）初出。」

美術史が専門の Самосюк は西夏文テキストに関しては述べていないものの，図像については，仏の左右に地蔵菩薩・観音菩薩が並ぶこと，地獄の様相など，詳細に図像を分析・解説している。しかし後の Кий 2012 にも指摘されるように，いくつか見直さなければならない点がある。

Кий 2012 は，当該資料の来歴・整理の歩み，資料の現況，研究などを述べている。いくつかの要点を示したい。

まず, 帝政ロシア時代, 1907 年のコズロフによるカラ・ホト探検時の発見, ロシア, サンクト・ペテルブルグへの収蔵の経緯が述べられるが, そもそもの出土地の詳しい状況は不明とされる。1939 年に「仏教様式，紙の木版，界図」のような基本情報が記録されたとする。ロシアの著名な西夏研究者ネフスキー（Невский, Н. А.）も知っていたのではと述べる。

書物は「縦向きの巻物だった」と推定し「上部の四角い部分は図」ではないかと述べている。Самосюк より詳細に図像を解説し「西夏の図のテーマは敦煌のものより（扱う範囲が），六道だけでなく（より）広い」とする。

残存する「黒枠のある所は, 7 行・11～12 字」,「黒枠の無い所は, 15 行・12 字」であること，黒地内の題は六道のそれぞれの名であることを示す。「どのテキストも同一のフレーズで終わっている」などの，西夏文テキストの情報を提供する。

また，天台僧・遵式が著した「円頓観心十法界図」との類似点と相違点などを指摘する。最終的に Самосюк が本資料に与えた標題には修正の要があることを提議している。

---

3）　訳者注：正確には『大正新脩大藏經』（以下, 大正）No. 410「大方広十輪経」（失訳）, 大正 No. 411「大乗大集地蔵十輪経」（玄奘訳）。

4）　Е. И. Кычанов（1932–2013），ロシアの著名な西夏研究者。

### 1.2 先行研究への補足と再考

上記を踏まえたうえで，補足と再考すべき事項を述べたい。まず，収蔵の経緯として，専門家には周知ではあるが，コズロフ発見による西夏文物は現ロシア，サンクト・ペテルブルグの二機関に所蔵される。ロシア地理学協会を経てアジア博物館に収められた文物は，絵画・美術品はエルミタージュへ，文献資料は東洋文献研究所に収蔵された。つまりこの資料は「文献」ではなく「仏画」として扱われたことが分かる。

Самосюк はテキスト部分が『大乗大集地蔵十輪経』（大正 No. 411）に基づくという。実際に大正 No. 410『大方広十輪経』（失訳），大正 No. 411『大乗大集地蔵十輪経』（玄奘訳）を通読しても，これら十輪経との関りは積極的には見いだせない。「十」界，「地蔵」菩薩による何らかの誤解による比定ではなかろうか。

次に Кий 2012 に関してである。資料は一時氏の推定するように巻物だったのかもしれないが，二つ折り，四つ折りにされた跡が顕著である。横に確認できる 3 本の折り目の中段と，上段・下段との距離は一致するので，重ねて折られたことは疑いない。ちなみにこの「折り目」と残りの文字数から，上部が消失していなかったら，サイズは「70.0×42.0 cm」とわかる。「上部の四角い部分は図」かと指摘されているが，ここは Кий 2012 自身がテキストの存在を後述しているので何らかの誤りと考えられる。

さて，「70.0×42.0 cm」は「文献」資料としては極めて大きい。図版を拡大し，筆者のもとで原寸大で再現してみると，西夏文字は 1.1×1.1 cm ほどとなり，通常の西夏文字の印刷物と違和感の無いサイズとなる。すなわち，通常の刻本をもとに全体のサイズが決まった可能性を指摘しておきたい。

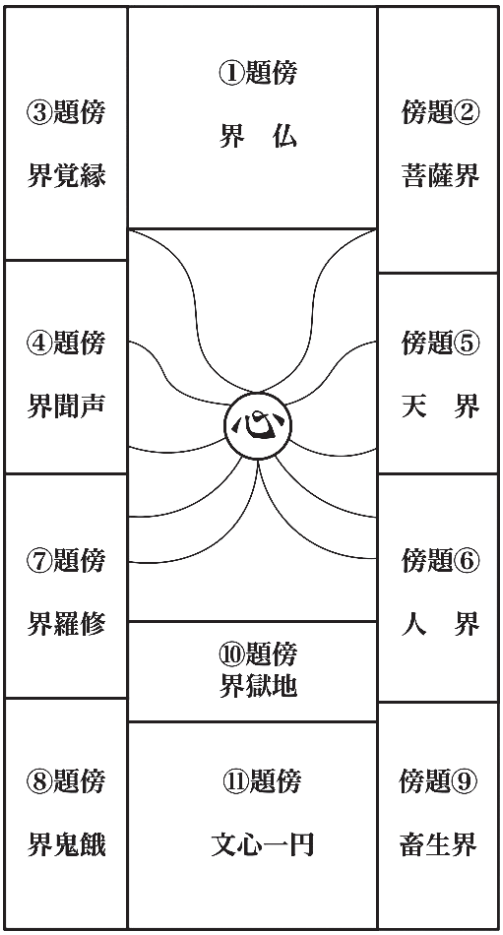
印刷の状態から，大型の紙に一度に印刷されたことは明らかである。この紙は 4 枚の紙を，右上・右下・左上・左下になるよう貼り合わせて作られている。上下の貼り合わせは「修羅界」の傍題の下あたり，左右の貼り合わせは中央の折り目あたりに見いだせる。なお，写真をよく見ると，正確な間隔は分からないものの，横に漉き縞が確認できる。

左下と中央下のみ「1 行 12 字詰め」，他は 11 字詰めを基本とする。左下と中央下は，内容的に末尾の方であり，テキストは全体的に，最後の方になればなるほど文章が多いので，行詰めによって字数超過を調整したかと思われる。

縦書き・横書き共に，一般の西夏文に見られない書字方向が見られる。「心」を中心に「左行から右行に」という配列もある。そしてこの規則から残存が少ない箇所の書字方向もわかる。

上部は欠損部も多いものの，図と残存する西夏文字からどの枠に「〇〇界」があったかが確実にわかる。

**十法界の配置図**




「円頓観心十法界図」における十法界の記述の順序に照らせば，各法界は，言語学・書記方向の説明にいう「牛耕式（Boustrophedon）」に従って配置される。

①↘
③←②
↓
④→⑤
↓
⑦←⑥
↓
⑧→⑨
⑩↙

この他，子細に写真を確認すると興味深い事が分かった。資料中段の，上下の折り目，右半分に文字の欠損と正体不明の線分が見られる。これは実は西夏文字であり，別の写本西夏文文献断片が補修のために利用されたものと考えられる。わかりやすい部分でいえば，畜生界の図の一部に被っている西夏文字は「住」が時計回りに 90 度回転したものだった。この事実は，補修が西夏時代に施されたことを意味する。したがって版画自体も西夏時代の作品という可能性が高い。

西夏文字 「住」

Самосюк 博士の私信により，重要な点が指摘された。表面の印刷された紙は「一枚」ではなく「積層」であり，透かして見ると，印刷面の下に西夏文写本十数行が確認できるのである。これはほぼ全面，すなわちたいへん広い面に書かれている。この二層目の紙が補強用であるのか，なぜこのような状態になったのか，詳しい事情は分からない。現状で下辺の方から（時計回りに 90 度回転させた），右行から左行に書かれているため，うっすらと横に線状になっている。現状で，左端中央の余白部分に 㡠「不」を時計回りに 90 度回転させた字形が確認できる。また他の部分の判読の結果，𢘅𦍒「〜無い界」などの表現が読み取れ，仏典の一部と思われる。印刷面と同じ面に西夏文字が読み取れるということは，印刷した紙の「裏に」書かれたわけはでないことは指摘するまでもないだろう。現時点では「透かして見る」しか，下層の西夏文を判読する手段は無い。おそらく「観心十界法図」と内容が関係する可能性は低いが，機会があればこれも判読に挑みたい。

## 2.「観心十法界図」西夏文テキストの解読

資料は，①「心」の西夏文字を中心として，その周囲に配された十法界の図像，②各法界の図像の横に付された説明部，③本資料全体についての総論部（本稿ではこれを「円一心文」と称す），の三つに大別できる。各行，西夏文字フォントによる録文，荒川 2014 による推定音，グロス，和訳を作成した。Column は 1.2. の構成図の番号に相当する。

〈凡例〉
・欠損する文字は□で示したが，字数が多い場合は「○文字欠」などとした。
・不明瞭だが筆者が推定できた文字は□の中に入れて示した。
・欠損・判読不能の文字の訳は…で示した。
・誤字と思われる文字については，* を付け（　）内に正しいと思われる文字も示した。
・注では必要に応じて『夏漢字典』の西夏文字番号を付した。「李 xxxx」がこれに当たる。

Column 0
00-1
𗤶
[1]ne:’
心
心

Column 1
【仏界】[5)]
〔約 11 行欠〕
01-1
[　　] 𗥤 □ 𗍫
[1]me:　[1]myor
無し　現
…無い。…現に
01-2
[　　] 𗣼 𗼇 𗅋
[1]tha　[2]kyeq　[1’]I:
仏　界　いう
…仏界という。

Column 2
【菩薩界】
02-1
[8 文字欠] 𗍊 𗏁 𗍫
[1]she:　[1]no’’　[1]ku
順う　縁　即
…にしたがう故に即ち，
02-2
[6 文字欠] 𗍩 𗍬 𗍮 𗍯 𗍰
[2]dze:’　[1]ci:q　[2]gu:’　[2]ryeqr　[1]kho:n
教える　苦　救う　楽　与える
…教え，苦を救い，楽を与える

5）「仏界」「菩薩界」「縁覚界」は見出しを欠くものの，内容や文末の表現から再構できる。

02-3

［6 文字欠］ 蒐 [illegible] 𗼇 [illegible] [illegible]

[1]dyu [1]tha: [2]ngu [2]dzwo: [1]gyu

有る Dem CM 人 済度する

…有る。それ[6] を以て人を済度し

02-4

［5 文字欠］ 𗴲 [illegible] 𗰜 [illegible] [illegible] [illegible]

[2]rer [1]jenq [2]lo [1]wi' [2]ryeqr [1]tsheu

岸 行く 群れ 生 方 趣

…（彼）岸[7]（に）行（くもの），群生する（もの）の方に向かい

02-5

［4 文字欠］ 𗍊 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]tha [2]syu [2]se [2]ne: [1]wu:' [2]di [1]ta:

大 如く 想 慈 悲 喜 TM

…の大いなるものの如く想い，慈・悲・喜び[8] とは，

02-6

［4 文字欠］ 𗏁 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]lhwi: [1]jwI: [1]shyo [2]dyen [?]zi? [2']yu [2]shyo'

取る する者 導 定 慧 常 両

…取る（?）者を導き（?），定・慧は常に両

02-7

［6 文字欠］ 𗅋

[1']I:

いう

…（菩薩界と）いう。

Column 3

【縁覚界】

03-1

［5 文字欠］ 𗰛 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]tse: [1]sho [2]nwi: [2']aq [1]nyI' [1']eu:

悟 起こす できる 十 二 因

…悟りを起こせる十二因（縁）

03-2

［5 文字欠］ 𗥤 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]ryur [1]dzu [2]le: [1]pa: [1]tha: [1]she:

諸 愛 見る 断つ Dem 順

…諸愛見を断つ。それにより

---

6） 西夏語は遠称の指示代名詞（「それ」に相当する）を主に 3 種持つが，本資料ではこの形式 [illegible] しか出現しない。

7） 西夏語では [illegible] [1]tenq [2]rer [2]nI:「彼岸に到る」という表現で，いわゆる「到彼岸」を表す。

8） 「慈・悲・喜・捨」で「四無量心」。

03-3
［5 文字欠］ □ 𗤶 𗍫 𗗚 𗥤 𗣼
$^{2}$ngu $^{1}$'e: $^{1}$genq $^{2}$dyonq $^{2}$jyan
CM 自 利 修める 菩-(-薩)
…を以て自利を修め，菩（薩）

03-4
［6 文字欠］ □ 𗥤 𗏁 𗧓 𗥞
$^{2}$dyonq $^{1}$jwa: $^{1}$mi:' $^{1}$'e:
修める 終 宮 CM
…修め終わり，住まいに

03-5
［8 文字欠］ 𗢳 𗍊 𗍑
$^{2}$'a $^{1}$ny'e:' $^{1}$tsyer
CM 住 法
…に住する法

03-6
［9 文字欠］ 𗍫 𗍔
$^{1}$'e: $^{1}$gyu
自 済度
…自らを済度し

03-7
［X 文字欠］
（縁覚界という。）

Column 4
【𗈪 𗗅 𗗍】
$^{2}$qyiq $^{1}$mi: $^{2}$kyeq
声 聞 界
声聞界

04-1
𗗣 𗗅 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍
$^{1}$te: $^{1}$mI:r $^{2}$thI: $^{2}$syu $^{1}$'u: $^{1}$ni: $^{1}$phI: $^{1}$sho $^{1}$dzyen $^{1}$kyi $^{2}$'I:r
もし 人 Dem 如く 先 家 出 起こす 律 戒 勤
もし人が，このように先に出家[9] を起こし，律・戒を勤め，

04-2
𗗍 𗗍 𗗍 ？[10] 𗥤 𗍑 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍 𗗍
$^{1}$'e:' $^{1}$ryur $^{1}$ca: $^{2}$dyonq $^{1}$tsyer $^{1}$ta: $^{1}$nga $^{1}$byo' $^{2}$le: $^{1}$zi:q
持する 諸 道 修める 法 TM 空 観る 見る 悩
持し，諸道（？）を修める法とは，空観を見，悩み

9） 仏教語彙の「出家」は，西夏語では「家・出る」と訳される。
10）李 0702「捜す，求める」のようにも見える。

04-3

[illegible]

$^{1}$'e: $^{1}$pa: $^{1}$shi: $^{2}$'o $^{1}$ma:' $^{1}$la:q $^{2}$'i:q $^{1}$bI: $^{2}$be: $^{1}$tyenq $^{1}$dzu

CM 断つ 先 入る 果 証明 更に 高 高 進む 愛

を断ち，先に入る果を明らかにする。更に，高い所に進み，愛

04-4

[illegible]

$^{2}$le: $^{2}$zi: $^{1}$si: $^{1}$wi' $^{1}$me: $^{1}$ne $^{1}$la:q $^{?}$'a? $^{1}$rar $^{1}$han $^{1}$shyen

見る 悉く 尽きる 生 無し 近 証明 阿 羅 漢 成す

見は悉く尽き，無生に近づくを明らかにし，阿羅漢[11] 道を成すは

04-5

[illegible]

$^{2}$ma:' $^{1}$'e: $^{1}$genq $^{2}$dyonq $^{1}$tse: $^{1}$genq $^{1}$mi: $^{1}$kyuq $^{1}$wi: $^{1}$'I:r $^{2}$wI:

多い 自 利 修 他 利 Neg 求 為す 造 P1[12]

多く，自利を修め，他利[13] を求めない，造るものを

04-6

[illegible]

$^{2}$tiq' $^{2}$'yu $^{?}$lho? $^{2}$ka $^{2}$kyeq $^{2}$ne:' $^{1}$phan $^{1}$la:q $^{1}$lhwi: $^{1}$cho $^{2}$qyiq

得 常 出 離 欲 涅 槃 証明 取る 故 声

得て，常に出離を欲し，涅槃を明らかにするをつかむ故，声-

04-7

[illegible]

$^{1}$mi: $^{2}$kyeq $^{1}$'I:

聞 界 いう

-聞界という。

Column 5

【[illegible]】

$^{1}$mI $^{2}$kyeq

天 界

天界

11) 本テキスト中のように，西夏語では「阿羅漢」は [illegible] $^{?}$'a? $^{1}$rar $^{1}$han，「修羅」は [illegible] $^{2}$seu $^{1}$lo とするのが定訳である。同じ「羅」に対して文字・音が異なる。前者はサンスクリット音を反映させた，後者は漢語音を反映させた借用語と考えられる。

12) 本資料中，西夏語学における，いわゆる接頭辞 1（西田 1989: 418 など。方向指示あるいは完了態を示す）が何度か出現する。文脈からほぼ全て動作の完了態として訳す。

13) 仏教漢文文献では「利他」で定訳となっているが，西夏語の逐語訳は「他利」。

05-1

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕶 | 䌇 | 䏲 | 䏲 | 䑩 | 䌤 | 䕷 | 䏲 | 䐷 | 䌤 | 䕷 |
| [1]te: | [1]ne:’ | [?]li? | [?]li? | [2’]aq | [2]neu’ | [2’]I:r | [2]dyonq | [2]jen | [2]lheu’ | [1’’]o’’ |
| もし | 心 | 念 | 念 | 十 | 善 | 勤 | 修める | 為す事 | 有る[14] | 徳 |

もし心，念念に十善を勤修することあり，徳を

05-2

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [2]dzI: | [1]ryur | [1]kha | [1]ci:q | [1]dwIr | [1]pI | [1]tsha:q | [?]le? | [2]rar | [1]zi:q’ | [2]war |
| 修習 | 世 | 間 | 苦 | 厭 | 貪 | 瞋 | 癡 | 調伏 | 宝 | 財 |

習い，世間苦を厭い，貪・瞋・癡を調伏し，宝財

05-3

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [1]nI: | [2’]a | [1]dzi: | [1]dze’ | [1]mi: | [1]dyu | [2’]yu | [1]mi:’ | [1]jenq | [1]dzu | [1’]e: |
| など | CM | 闘争 | 諍い | Neg | 有る | 常 | 布施 | 行う | 愛 | 自 |

等に諍いはなく，常に布施を行うを好み，自らは

05-4

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [2]lhi:’ | [1]mI: | [1]tyenq | [2’]yu | [1]lo: | [1]syen | [2]dyonq | [2]mi:’ | [2]naq | [2]waq | [1’]I:r |
| 退転 | 他 | 進む | 常 | 福 | 業 | 修める | 治める | 事 | 広く | 造 |

退き，他は進む。常に福の業を修め，治めことを広く為す。

05–5

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [1]ne:’ | [2’]yu | [1]wI’ | [2]neu’ | [2]tyenq | [1]tshon | [1]tsyenq | [2]nwe | [1]wyeqr | [2]jyu | [1]ryur |
| 心 | 常 | 柔 | 安穏 | 儀礼 | 伎楽 | 謙 | 和 | 盛 | 弱 | 世 |

心は常に，柔く穏やか，儀礼・伎楽に和し，盛衰ある世を

05-6

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [1]dwIr | [1]mI | [2]phyu | [2]ryeqr | [2]ko:r | [1’]e: | [1]ny’e:’ | [?]ji? | [2]dzI: | [2]zon | [2]ngu |
| 厭 | 天 | 上 | 楽しむ | 愛 | 相 | 住 | 業 | 修める | 執る | CM |

厭い，天上を楽しみ，愛相に住し，業を習い執るを以て

05-7

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 | 䕷 |
| [1]tsheu | [1]kyuq | [1]cho | [1]mI | [2]kyeq | [1’]I: |
| 趣 | 求 | 故 | 天 | 界 | いう |

向かうを求める故に，天界という。

14）字形は李 2753「有る」に見えるが，䕷䕷 [2]cha: [1’]o’’「功徳」の可能性もある。

Column 6

【[illegible] [illegible]】

[2]dzwo: [2]kyeq

人 界

人界

06-1

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]te: [1]ne:' [?]li? [?]li? [2]neu' [1]tsyer [1]dzu [1]ngwi [1]ryur [1]lo: [1]syen

もし 心 念 念 善 法 愛 楽しむ 諸 福 業

もし心，念念に善法を好み楽しみ，諸々の福の業を

06-2

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]dyonq [1]ngwI [1]kyi [1]myor [1']e:' [2']aq [2]neu' [2]benq [1]jenq [1]jwyu [?]wo?

修める 五 戒 現 持する 十 善 助ける 行う 仁 義

修め，五戒を現に持し，十善を助けるを行い，仁義

06-3

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]do [1]lyI' [1]ngwu' [?]ji? [2]cha: [1]tuq [2']yu [1']e: [1]te: [1]dzu [1]mI:

礼 重い 論 業 徳 忠 常 自 もし 愛 他

礼を重んじ，論業・徳忠，常に自らをもしくは愛し，他を

06-4

□[15] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]mi: [1]ngwi [2]phyu [1]dzi:q' [2]bi: [?]li? [1]zeu: [?]ni? [1]ne:' [1]me:

Neg 楽しむ 上 恭 下 念 侵 凌 心 無し

…楽しまず，上には恭順し，下にも配慮し，侵略しようという心は無い。

06-5

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]ho [1]zenq [1]mI: [1]kyuq [2]thyu [1]dzyen [1']e: [1]shyo' [1]soq [1]zi:q' [1]bu:'

彼の 時 他 求 ここ 時 自 集 三 宝 恭-

彼の[16] 時は他を求め，この時は自ら集め，三宝を恭-

06-6

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]dzyI' [1]wa: [1]ma: [1]wI' [1]she: [2]lyuq [2']a [1]mi: [1]dwIr [2]ngu [1]ryur

-敬 父 母 孝 順 身 CM Neg 厭 CM 諸

-敬し，父母に孝順し，身を厭わないのを以て，諸

15）最終画は「匕」のように見える。

16）やや字形が不明瞭だが，5，6 字目の表現（この時）から推定する。

06-7

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{1}$si　$^{2}$lyeq　$^{1}$kyuq　$^{1}$cho　$^{2}$dzwo:　$^{2}$kyeq　$^{1}$'I:

愛　貪　求　故　人　界　いう

愛貪を求める故に，人界という。

Column 7

【[illegible]　[illegible]　[illegible]】

$^{2}$seu　$^{1}$lo　$^{2}$kyeq

修　羅　界

修羅界

07-1

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{1}$te:　$^{1}$ne:'　$^{?}$li?　$^{?}$li?　$^{1}$'i:　$^{2}$neu'　$^{1}$ngwi　$^{2}$kyeq　$^{1}$zi:　$^{1}$mi:'　$^{1}$syen

もし　心　念　念　衆　善　楽しむ　欲　布施する　業

もし心，念念に衆の善きを楽しまんと欲して布施し，修-

07-2

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{2}$dyonq　$^{2}$'yu　$^{1}$kyi　$^{1}$'e:'　$^{1}$wi:　$^{2}$ldeu　$^{2}$'weu:　$^{1}$lyenq　$^{2}$cha:　$^{2}$jye　$^{1}$mi:

修める　常　戒　持する　為す　べき　疑　惑　徳　信　Neg

-行し，常に戒を持するを為すべきである（のを），疑惑し，徳・信を起こさ-

07-3

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{1}$sho　$^{1}$mI:　$^{1}$lo:　$^{2}$dyonq　$^{2}$le:　$^{1}$zi:q'　$^{1}$seu　$^{1}$ne:'　$^{1}$sho　$^{2}$dze:　$^{1}$su

起こす　他　福　修める　見る　嫉妬　心　起こす　他　より

-ず，他が福を修めるのを見て嫉妬心を起こし，他よりも

07-4

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{2}$bu'　$^{2}$kyeq　$^{1}$tsyenq　$^{1}$zwi　$^{1}$mI:　$^{2}$se:　$^{1}$dzyonq　$^{2}$leu　$^{2}$be:　$^{1}$jwo:n　$^{1}$tha:

優　欲　謙　謙　Neg　識　譬え　鵂　高　鳥　Dem

優れんと欲し，謙譲を知ることができない[17]。譬えるなら，鵂が高く飛び，その

07-5

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

$^{1}$mwe　$^{2}$bi:　$^{1}$'u:'　$^{2}$'yu　$^{1}$dzi:　$^{1}$dze'　$^{1}$dzu　$^{2}$nga　$^{1}$khwyeq　$^{1}$mI:　$^{1}$geu:

眼　下　看る　常　闘争　諍い　愛　我　慢　Neg　恭敬

眼下に見る常の諍いを好み，我慢し恭敬できず，

17）否定接頭辞の中でも「可能性の否定」として機能するとされる。

07-6

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 𗍫 | 𗦳 | 𗥤 | 𗢎 | 𗥃 | 𗏵 | 𗅁 | 𗴢 | 𗼎 | 𗹭 | 𗅋 |
| 1tsha:q | 2kwon | 1mi: | 1taq | 1’e: | 2zon | 2ngwu | 1phi: | 2thI: | 1lo: | 1syen |
| 嗔恚 | | Neg | 止む | 自 | 執る | である | させる | Dem | 福（四？） | 業 |

嗔恚を止めず，自ら執るのであるとさせる。この*福（四つ）[18] の業を

07-7

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 𗾟 | 𗿲 | 𗍊 | 𗢳 | 𗼇 | 𗅇 |
| 1jenq | 1cho | 2seu | 1lo | 2kyeq | 1’I: |
| 行う | 故 | 修 | 羅 | 界 | いう |

行う故に修羅界という。

Column 8

【𗴲 𗹨 𗼇】

| | | |
|---|---|---|
| 1shyuq | 1’yu | 2kyeq |
| 餓 | 鬼 | 界 |

餓鬼界

08-1

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 𗾊 | 𗏢 | 𗍊 | 𗍊 | 𗽙 | 𗿇 | 𗿍 | 𗿇 | 𗿐 | 𗿔 | 𗿕 | 𗿖 |
| 1te: | 1ne:’ | ?li? | ?li? | 1bu:’ | 1me: | 1’yu | 1me: | 2lyeq | 1kyuq | 1mI: | ?lhe? |
| もし | 心 | 念 | 念 | 瞻仰 | 無し | 恥 | 無し | 貪 | 求 | Neg | 満足[19] |

もし心，念念に尊敬無く，恥無く，貪りを求め，満足できず，

08-2

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 |
| 2tseu | 2le:’ | 1kyi | 1tsyuq | 1phi: | 1byu | 2thi: | 1dzi: | 1tshe | 1lo: | 1mi: | 2bi: |
| 斎 | 壊す | 戒 | 触 | 意 | 随 | 食 | 食べる | 罪 | 福 | Neg | 避ける |

斎を壊し，戒に触れ，意のままに食を食べ，罪福を避けない

08-3

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 |
| 1’eu: | 1ma:’ | 1mI: | 2se: | 1tha | 1tsyer | 1mi: | 2jye | 1ne:’ | 2dzeu | 1lwoq2 | 2ryeqr |
| 因 | 果 | Neg | 識 | 仏 | 法 | Neg | 信 | 心 | いつわり | | 多 |

因果を知ることができず，仏法を信じない，偽りの心が多く，

08-4

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 | 𗍊 |
| 2’yu | 1non | 2le: | 1jenq | 1mI: | 1tsweu | 1mi:’ | 2le: | 1mi: | 1wI’ | 1ne:’ | 1sho |
| 常 | 邪 | 見る | 行う | 他 | 供養 | 布施 | 見る | Neg | 伏す | 心 | 起こす |

常に邪見を行い，他（人）が供養・布施するのを見るを伏せない心を起こす。

---

18）「福の業」では文意が通らない。1. 常の諍いを好み，2. 我慢し恭敬せず，3. 嗔恚を止めず，4. 自ら執るなら「四つの業」であるはずである。これは𗅋 1ldyIr「四」と字形の近い𗅋 1lo:「福」の彫り誤りという可能性がある。3 行前の𗅋 1lo:「福」に影響されたか。

19）偏が一部欠けるが李 3194 𗍊「満足する，足る」と解した。

08-5
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]cho’’ [1]genq [1]ri:r [1]mi: [2’]u [1]tsha:q [2]kwon [1]sho [2’]yu [2]lyeq [1]lyu:’ [1]chyu
或いは 利 得る 聞く 内 嗔恚 起こす 常 貪 吝嗇 ある
或いは利を得るを聞く内に嗔恚を起こし，常に貪・吝嗇が有り，
08-6
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]mi:’ [1]jyIr [1]mI: [2]nwi: [?]j? [2]ryeqr [2]kwye [1]zyIr [1]jyeu [2]khyI [2]dzeu [1]lwoq2
布施 捨てる Neg できる 虚 多 誠 少 いかり いつわり
布施を捨てることができず，虚ろは多く誠は少なく，怒り，偽る，
08-7
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]cho [1]shyuq [1’]yu [2]kyeq [1’]I:
故 餓 鬼 界 いう
故に餓鬼界という。

Column 9
【[illegible] [illegible] [illegible]】
[2]syu [2]dzyu [2]kyeq
畜生 界
畜生界
09-1
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]te: [1]ne:’ [1]dzyen [1]dzyen [2’]yu [1]ngwI [2]kyeq [1]thu:’ [1]wi:q [1]jwI: [2]ryeqr
もし 心 時 時 常 五 欲 観察 眷属 多
もし心，時々に常に五欲を観て，眷属の多きを
09-2
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]kyuq [1]?nyI’ [1]sho [2]lhi? [1]lhu: [1]no’’ [1]dwIr [?]lhe? [1]me: [1]ca: [2]tya:
求 日 起こす 月 増 後 厭 満足 無し 道 非ず
求め，日を起こし月を増したのちまた，厭い，満足すること無く，非道
09-3
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[2’]a [1]twe [1]leu [1]ti:q [2]war [1]kyuq [1]bu:’ [1]me: [1’]yu [1]me: [2]war
CM 重ねる 唯 食 財 求 瞻仰 無し 恥 無し 財
を重ねる。ただ，食・財を求め，尊敬すること無く，恥は無く，財に
09-4
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[1]zenq [1]kaq [1]wi’ [1]mI: [2]neu’ [1]tshe:’ [1]mi: [1]ne:’ [1]mi: [1]dzu [1]ngwi
著 命 失 他 善 説く 聞く 心 Neg 愛 楽しむ
執着し，命を失う。他（人）が善を説くことを聞いて心楽しまず，

09-5

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]dzyu [2]dze:’ [1]mi: [?]lhe? [1’]eu: [1]ma:’ [1]mi: [2]tse: [2]neu’ [2]ny’yon [1]mI:

教化 教 Neg 受 因 果 Neg 悟 善 悪 Neg

教化を受けず，因果を覚らず，善悪がわから-

09-6

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]se: [2]tyenq [1]tser [2]zi: [1]me: [1]ba [2]syu [?]le? [2]syu [2]syu [1]denq

識 儀礼 節 悉く 無し 聾 如く 癡 如く 畜 類

-ず，礼節悉く無く，聾のように，癡者のように，畜生類

09-7

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[2]ri:r [1]thu’ [1]cho [2]syu [2]dzyu [2]kyeq [1’]I:

と 同じ 故 畜生 界 いう

と同じ故，畜生界という。

Column 10

【[illegible] [illegible] [illegible]】

[1]di:q [2’]yen [2]kyeq

地獄 界

地獄界

10-1

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]te: [1]ne:’ [?]li? [?]li? [2]lyeq

もし 心 念 念 貪

もし心，念念に貧・

10-2

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]tsha:q [?]le? [1]nI: [2’]aq [2]ny’yon

怒 癡 など 十 悪

瞋・癡などの十悪，

10-3

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[1]ngwI [?]T?[20] [2]phyu [1]te: [1]tshe

五 逆 上 品 罪

五逆，上品罪を

20）李 0563。声母が舌頭音類（歯茎音に相当）である以外，推定音の根拠を持たない文字である。

10–4
䕷　䕸　䕾　䕿　䖀
[1]wi:　[1]'eu:　[1]ma:'　[1]me:　[1]'I:
為す　因　果　無し　いう
為し，因果無しという。
10-5
䖁　䖂　䖃　䖄　䖅
[2]mi'　[2]neu'　[1]mI:　[2]se:　[2]phyu
神　善　Neg　識　上
神の善きことを知ることができず，上-
10-6
䖆　䖇　䖈　䖉　䖊
[2]bi:　[1]mi:　[2]bir　[1]ne:'　[2]'yu
下　Neg　遇う　心　常
-下合わず，心は常に
10-7
䖋　䖌　䖍　䖎　䖏
[2]leu　[1]'yeqr　[1]lwon　[1]sa:　[1]mi:
性　剛　妄　殺　Neg
性剛，妄殺を悲し-
10-8
䖐　䖑　䖒　䖓　䖔
[1]wu:'　[1]ni:　[2]'a　[1]mi:　[1]wI'
悲　家　CM　Neg　孝
-まず，家に孝行せず，
10-9
䖕　䖖　䖗　䖘　䖙
[2]lhe?　[1]'e:　[1]mi:　[1]tuq　[2]'yu
国　CM　Neg　忠　常
国に忠義せず，常に
10-10
䖚　䖛　䖜　䖝　䖞
[2]ny'yon　[1]syen　[2]dzI:　[2]neu'　[2]chi:
悪　業　修習　善　根
悪業を習し，善根を
10-11
䖟　䖠　䖡　䖢　䖣
[1]pa:　[2]dza:r　[2]'yu　[2]ny'yon　[1]kuq
断つ　滅　常　悪　源
断滅し，常に悪源を

10-12

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{2}$wa:q | $^{1}$tshe | $^{1}$lo: | $^{1}$mI: | $^{1}$nwI |
| 放 | 罪 | 福 | Neg | 知 |

放ち，罪も福も知らない

10-13

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$cho | $^{1}$di:q | $^{2}$’yen | $^{2}$kyeq | $^{1}$’I: |
| 故 | 地獄 | | 界 | いう |

故に地獄界という。

Column 11

【円一心文[21)]】

11-1

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$’onq | $^{1}$leu | $^{1}$ne:’ | $^{1}$’onq | $^{1}$tyon | $^{2}$zi: | $^{1}$zyIr | $^{1}$la’ | $^{2}$jwI: | $^{2}$ri:r | $^{2}$wI: | $^{2}$ka |
| 円 | 一 | 心 | 円 | 鏡 | 最 | 少 | 汚染 | 妨げ | と | P1 | 離 |

円かなる一心は円鏡なり。極微の汚障と離れて，

11-2

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$lwoq2 | $^{2}$bi: | $^{2}$khI: | $^{2}$se | $^{1}$nga | $^{2}$tha[22)] | $^{2}$myeqr’ | $^{1}$sweu | $^{1}$’e: | $^{1}$’e:’ | $^{1}$la’ | $^{1}$se |
| 虚妄 | 下 | 万 | 想 | 空 | 大 | 通 | 明 | CM | 持する | 汚染 | 清浄 |

下の虚妄，万の想は空で，大通明を持する。汚・浄（の）

11-3

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$nyI’ | $^{1}$no’’ | $^{1}$’e: | $^{2}$lwu | $^{2}$nwi: | $^{1}$tha: | $^{2}$’aq | $^{1}$tsyer | $^{2}$kyeq | $^{2}$do | $^{1}$pha | $^{2}$wI: |
| 二 | 縁 | CM | 隠す | できる | Dem | 十 | 法 | 界 | 差別 | | P1 |

二縁[23)] を隠すことができる。その十法界の差別を分け-

11-4

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$di:’ | $^{2}$gu | $^{1}$sa | $^{2}$lhi:q | $^{1}$ni:q | $^{1}$cheu: | $^{1}$mur | $^{1}$ca: | $^{2}$da: | $^{1}$shyen | $^{1}$tenq | $^{2}$rer |
| 分 | 中 | 網 | 迷惑 | 沈 | 六 | 俗 | 道 | P1 | 成す | 彼岸 | |

-た中で，網の（ような）迷いは沈み，六俗道を成して，彼岸を

21）題を持たない部分，対応する漢文を持たない部分であるが，仮にこのように名付ける。

22）「大」という同義で異音（$^{2}$lenq と $^{2}$tha）を持つ字である。ここでは漢語借用語として $^{2}$tha を推定する。

23）「二縁」とは「染縁」と「淨縁」を指すと思われる。例えば延壽『宗鏡録』には「隨於染淨縁。遂成十法界。隨染縁成六凡法界。隨淨縁成四聖法界」とある。

11-5

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{2}$tse: | $^{2}$dzu’ | $^{1}$ldyIr | $^{2}$syen | $^{1}$mi:’ | $^{1}$’e: | $^{1}$ge:’ | $^{1}$dzenq | $^{1}$kyiq | $^{2}$’wI:r | $^{2}$se | $^{1}$ku |
| 悟 | 座 | 四 | 聖 | 宮 | CM | 超 | 越する | 金 | 文 | 想 | 即 |

悟り座し，四聖宮を超越する。金文を思えば即ち，

11-6

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{1}$’eu: | $^{1}$ma:’ | $^{1}$byu | $^{1}$se: | $^{2}$bu’ | $^{1}$la:q | $^{1}$ku | $^{1}$kI: | $^{2}$dyen | $^{2}$neu’ | $^{1}$’eu: | $^{1}$byu |
| 因 | 果 | 随 | 明顕 | 優 | 証明 | 即 | 必ず | | 善 | 因 | 随 |

「因果により明顕が優れることを明らかにすれば即ち，必ず，善因により

11-7

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼[24] |
| $^{1}$sho | $^{2}$ny’yon | $^{1}$ma:’ | $^{1}$ri:r | $^{1}$zenq | $^{1}$kI: | $^{2}$dyen | $^{1}$cheu’ | $^{1}$syen | $^{1}$byu | $^{2}$le: | $^{2}$ngi:’ |
| 起こる | 悪 | 果 | 得る | 時 | 必ず | | 宣べる | 業 | 随 | 見る | 望む |

起こる悪果を得るときは，必ず宣べる業により見るを望む」

11-8

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{1}$phi: | $^{1}$zyIr | $^{1}$wenq | $^{2}$le: | $^{1}$byu | $^{2}$mi’ | $^{2}$syen | $^{1}$’e: | $^{2}$du’ | $^{1}$na | $^{1}$pyuq | $^{2}$tya: |
| 意 | 少 | 短 | 見る | 随 | 賢 | 聖 | CM | 密 | 深 | 量る | 非ず |

意が少なく短いのを見るにより，賢聖の密深を量るに非ず，

11-9

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{1}$she: | $^{1}$lho | $^{1}$leu | $^{1}$ne:’ | $^{1}$’e: | $^{1}$mi: | $^{2}$se | $^{2}$’i:q | $^{2}$’i:q | $^{1}$soq | $^{1}$dyu | $^{1}$kha |
| 帰順 | | 一 | 心 | CM | Neg | 想 | 更に | | 三 | 有る | 間 |

帰順し一心を思うことなく，何度も三有の間を

11-10

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{2}$jyI | $^{2}$jye | $^{1}$te: | $^{1}$ryur | $^{?}$lho? | $^{1}$kyuq | $^{2}$kyeq | $^{1}$kI: | $^{2}$dyen | $^{2}$thI: | $^{1}$tyon | $^{1}$byu |
| 流[25] | 転 | もし | 世 | 出 | 求 | 欲 | 必ず | | Dem | 鏡 | 随 |

流転する。もし世に出て求めるを欲するなら，必ずこの鏡により

11-11

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 | 䌼 |
| $^{2}$’I:r | $^{2}$ngu | $^{2}$dyonq | $^{1}$’I:r | $^{1}$ku | $^{1}$zi:q | $^{1}$syen | $^{2}$ngo:r | $^{2}$ngo:r | $^{2}$to | $^{2}$zi: | $^{2}$dza:r |
| 勤 | CM | 修習 | 造 | 即 | 悩 | 業 | 一切 | | 皆 | 悉く | 滅 |

勤めるを以て修造すれば即ち，悩業一切皆悉く滅する

24）李 0251 䌼 $^{2}$bi「縄」の字のようにも見える。
25）第一画の点を欠くか。

11-12

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$lI: | $^{1}$fa:q | $^{2}$sho: | $^{2}$ldwIr | $^{1}$kha | $^{1}$tshe:’ | $^{1}$ne:’ | $^{2}$tshenq | $^{1}$kyIr | $^{1}$ryeqr’ | $^{2}$syu | $^{1}$ryur |
| 也 | 華厳 | | 経 | 間 | 説く | 心 | 麗 | | 巧匠 | | 如く | 諸 |

のだ。『華厳経』に曰く。「心の巧みなること，匠のように[26]，諸の

11-13

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$ryur | $^{1}$kha | $^{2}$tshenq | $^{2}$nwi: | $^{1}$ngwI | $^{2}$ngur | $^{1}$tha: | $^{1}$byu | $^{1}$sho | $^{1}$tsyer | $^{1}$mi: | $^{1}$wi: |
| 世 | 間 | 麗 | できる | 五 | 蘊 | Dem | 随 | 起こす | 法 | Neg | 為す |

世間を麗しくできる。五蘊は，それに随い起こる。法は造らないことは[27]

11-14

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{1}$ta: | $^{1}$me: | $^{1}$no’’ | $^{1}$tshe:’ | $^{1}$te: | $^{2}$dzwo: | $^{?}$ji? | $^{2}$senq | $^{?}$wo? | $^{2}$ngo:r | $^{2}$ngo:r | $^{1}$nwI |
| TM | 無し | 後 | 説く | もし | 人 | 業 | 智 | 義 | 一切 | | 知 |

無し」と。後また曰く，「もし人が，行い・智・義の一切を知り[28]

11-15

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| $^{2}$tse: | $^{2}$kyeq | $^{1}$tsyer | $^{2}$kyeq | $^{2}$tsyer2 | $^{1}$byo’ | $^{2}$ldeu | $^{2}$ngo:r | $^{2}$ngo:r | $^{1}$ne:’ | $^{1}$byu | $^{1}$wi: |
| 悟 | 欲 | 法 | 界 | 性 | 観る | べき | 一切 | | 心 | 随 | 為す |

悟らんと欲し，法界性を観るべし。一切は，心に随って為す」と。[29]

## 3. 西夏文と漢文の表現・内容の比較検討

### 3.1 西夏文「観心十法界図」と漢文「円頓観心十法界図」

本節では，荒川による西夏文訳文（現存部がほとんど無い部分も示す）と，遵式の「円頓観心十法界図」[30]の橋堂による読み下し文，及び対応関係に関する注釈を挙げる。2. のテキスト，すなわち「仏界」から「地獄界」の順で示す（題は漢文版を見出しとする）。参考のため，「円一心文」も西夏文の訳文を挙げておく。

**1. 仏界**

【西夏文】

〔11 行欠〕…無い。〔数文字欠〕現に…仏界という。

【漢文】

佛界。若人因讀圓滿修多羅及聞善知識所說起淨信心。信已一念三道之性即三德性。苦道即法身。煩惱即般若。結業即解脫。法身究竟。般若清淨。解脫自在。一究竟一切究竟。般若解脫亦究竟。

---

26）漢文「心如工畫師」か。
27）「能畫諸世間　五蘊悉從生　無法而不造」。
28）「若人欲了知　三世一切佛（これは見当たらないが，行・智・義を指すか？）」。
29）「應觀法界性　一切唯心造」。
30）テキストは「天竺別集」巻上，『新纂大日本続蔵経』57 巻，No. 951，27–30 頁に基づく。

一清淨一切清淨。法身解脫亦清淨。一自在一切自在。法身般若亦自在。即一而三。即三而一。非縱非横亦非一異。法身常住餘亦常住。樂我淨亦如是。是則常樂四德祕密之藏遍一切處。一切諸法悉是佛法。既信是已。以境繫心。以心繫境。心境念念相續不斷。必見法性。設未相應。當依一實無作四諦起四大誓無可求中吾故求之。依前苦道即苦諦。發一誓願未度者令度。煩惱及業即集諦。發一誓願未解者令解。苦道即法身即是滅諦。發一誓願未涅槃者令得涅槃。煩惱即菩提即是道諦發一誓願未安者令安。四弘不入當巧安心。如是次第具修十法。必入五品六根及分證位名佛法界。

仏界。若し人圓満なる修多羅を読み及び善知識の所説を聞くに因りて清浄心を起こし，己が一念の三道の性は即ち三徳の性なり。苦道は即ち法身，煩悩は即ち般若，結業は即ち解脱と信じ，法身究竟，般若清浄，解脱自在なり。一究竟一切究竟にして般若の解脱も亦た究竟し，一清浄一切清浄にして法身解脱も亦た清浄なり。一自在一切自在にして法身般若も亦た自在なり。一に即して而も三, 三に即して而も一，縦に非ず横に非ず亦た一異に非ず。法身常住なれば余も亦た常住なり。楽我浄も亦た是の如し。これ則ち常楽四徳の秘密の蔵一切処に遍して，一切諸法悉くこれ仏法なり。既にこれを信じ已って境を以って心に繫し，心を以って境に繫し，心境念念に相続して断ぜざれば必ず法性を見る。設ひ未だ相応せずとも一實無作の四諦に依り四大誓を起こし求むべきなき中に吾故にこれを求むべし。前の苦道は即ち苦諦なるによりて，一誓願を発こし，未だ度せざる者を度せしめ，煩悩及び業は即ち集諦なれば一誓願を発こし，未だ解せざる者を解せしむ。苦道は即ち法身なるは即ち是れ滅度なれば一誓願を発こす。未だ涅槃せざる者に涅槃を得せしむ。煩悩即菩提なるは即ち是れ道諦なれば一誓願を発こす。未だ安ぜざる者を安ぜしむ。四弘に入らず，心を安ぜじむるに巧みなるべし。是の如く次第して具に十法を修し，必ず五品六根及び分証の位に入るを仏法界と名づく。

**2. 菩薩界**

【西夏文】

［8 文字欠］…にしたがう故に即ち，［6 文字欠］…教え，苦を救い，楽を与える［6 文字欠］…有る。それを以て人を済度し［5 文字欠］…（彼）岸（に）行（くもの），群生する（もの）の方に向かい［4 文字欠］…の大いなるものの如く想い, 慈・悲・喜とは, ［4 文字欠］…取る（?）者を導き（?），定・慧は常に両［6 文字欠］…（菩薩界と）いう。

【漢文】

菩薩界。若觀根塵一念為迷解本。迷故則有十界苦集。悟故則有四聖道滅。緣此無量四諦起無量誓願。未度者令度。未解者令解。未安者令安。未涅槃者令得涅槃。善巧度生慈眼視物。所集福業與眾生共。如是起一念者。名菩薩法界。

菩薩界。もし根塵の一念を迷解の本と為さば，迷なるが故に則ち十界の苦集あり，悟なるが故に則ち四聖の道滅ありと観じ，この無量の四諦を縁じて無量の誓願を起こす。未だ度せざる者を度し，未だ解せざる者を解せしめ，未だ安らかならざる者を安ぜしめ，未だ涅槃せざる者は涅槃を得せしむ。善巧もて生を度し，慈眼もて物を視る。集むる所の福業を衆生と共にす。是の如く一念を起こす者を菩薩法界と名づく。

**3. 縁覚界**

【西夏文】

［5 文字欠］…悟りを起こせる十二因（縁）［5 文字欠］…諸愛見を断つ。それにより［5 文字欠］…を以て自利を修め, 菩（薩）［6 文字欠］…修め終わり, 住まいに［8 文字欠］…に住する法［9 文字欠］…自らを済度し［X 文字欠］（縁覚界という。）

【漢文】

緣覺界。若根塵念起。則了之從無明生。生故有行。行招名色乃至老死。三世相續如舞火輪。因緣本空幻化不實。求自然慧樂獨善寂。觀空心重耽住寂定。雖得道果不慕化人。復有觀物榮落悟世非常聞空得道。名為獨覺。如是行者名緣覺法界。

縁覚界。もし根塵の念起こらば，則ちこれを無明より生じ，生ずるが故に行あり，行は名色ないし老死を招き，三世に相続すること舞火輪の如く，因縁本と空にして，幻化不実なりと了じ，自然の慧を求めて，独り善寂を楽ひ，観空の心重く寂定に耽住し，道果を得と雖も，人を化するを慕わず。また物の栄落を観じて，世の非常を悟り，空を聞きて道を得ること有るを名づけて独覚と為す。かくの如き行者を縁覚法界と名づく。

【注釈】

1 行　西夏文「十二因（縁）」（𗤶𗅋𗏣）：漢文に十二因縁の語句そのものはないが，「則了之從無明生，生故有行，行招名色乃至老死」がそれにあたる。

3 行　西夏文「自利を修め」（𗥤𗍊𗅋）：漢文「雖得道果不慕化人」に呼応する。

**4. 声聞界**

【西夏文】

もし人が，このように先に出家を起こし，律・戒を勤め，持し，諸道（?）を修める法とは，空観を見，悩みを断ち，先に入る果を明らかにする。更に，高い所に進み，愛見は悉く尽き，無生に近づくを明らかにし，阿羅漢道を成すは多く，自利を修め，他利を求めない，造るものを得て，常に出離を欲し，涅槃を明らかにするをつかむ故，声聞界という。

【漢文】

聲聞界。若根塵因緣隨有一念。依色心故苦。由煩惱故集。厭苦斷集非對治如何。遂依四諦修十六觀三十七道品。如救頭然。由四善根得入無漏四沙門果。證二涅槃。會偏真理。不得佛法。不慕化人。如麞獨跳不顧後群。如此一念名聲聞法界。

声聞界。もし根塵の因縁，有の一念に随はば，色心に依るが故に苦なり，煩悩に由るが故に集なり。苦を厭い，集を断ずること，対治に非ずんば如何にかせん。遂に四諦に依りて十六観三十七道品を修さば，頭の燃ゆるを救うがごとし。四善根に由り無漏の四沙門果に入り，二涅槃を証す。偏なる真理に会して仏法を得ず，人を化することを慕わざること麞の独り跳ねて後群を顧みざるがごとき，此の如き一念を声聞法界と名づく。

【注釈】
2 行「諸道（?）を修める法」とは，漢文「三十七道品」を指すと思われる。従って欠損している部分には西夏文字「品」もしくは「分」に対応する文字を想定できる。
2〜4 行「空観を見，悩みを断ち，先に入る果を明らかにする。更に，高い所に進み，愛見は悉く尽き，無生に近づくを明らかにし，阿羅漢道を成すは多く，自利を修め，他利を求めない，造るものを得て，常に出離を欲し，涅槃を明らかにする」（𗍫𗥤𗏁𗢳𗣼𗦳𗥞〜𗥞𗥓𗤶𗢭）：漢文「十六觀」を簡潔に説明していると推測される。ここに言う十六観とは，浄土教のそれではなく，「十六行相」と同義である。すなわち四諦の境を観ずるのに四つずつの方法があることをいう。第一の苦諦において諸法は空と観ずることに対応しており，「更に，高い所に進み」とは苦諦を順次，集・滅・道における観法を言う。また「先に入る果」とは，漢文に照らせば「四沙門果」に対応する。
5 行「自利を修め，他利を求めない」（𗏁𗣠𗥤𗍫𗤶𗥤𗥞𗣠）：漢文「不慕化人」に対応する。

**5．天法界**
【西夏文】
天界。もし心，念念に十善を勤修することあり，徳を習い，世間苦を厭い，貪瞋癡を調伏し，宝財等に諍いはなく，常に布施を行うを好み，自らは退き，他は進む。常に福の業を修め，治めることを広く為す。心は常に柔く穏やか，儀礼・伎楽に和し，盛衰ある世を厭い，天上を楽しみ，愛相に住し，業を習い執るを以て向かうを求める故に，天界という。

【漢文】
天法界。若其念起多忻天樂。篤其善心希於來報。齋戒純淨飯食沙門。造立塔寺及佛形像。書寫大乘濟惠貧病。於十善法止作具修。自然成性。或關禁六根。使六情不蕩六塵不入。得欲界禪及色無色定。身心寂靜三業調良。如此一念名天法界。

天法界。もしその念起きて多く天の楽を忻び，その善心を篤くし，来る報いを希い，齋戒純浄にして，沙門に飯食し，塔寺及び仏の形像を造立し，大乘を書写し，貧病を済恵し，十善法において止作具に修し，自然に性を成じ，或いは六根を関禁して六情をして蕩せず，六塵をして入れざらしむ。欲界禅および色無色定を得，身心寂静にして三業調良なる，此くのごとき一念を天法界と名づく。

【注釈】
1 行　西夏文「もし心，念念に」（𗥞𗢳𗥤𗥤）：漢文「若其念起」は，他の法界では，「念念」とあるので，これと同義と考えられる。「念念」とは「刹那」すなわちサンスクリットの kṣaṇa「極めて短い時間」を意味する。したがって西夏文「𗥤𗥤」も，これを踏まえた表現である。
1 行　西夏文「十善を勤修することあり」（𗢭𗥞𗥤𗍫𗥤𗏁）：漢文「於十善法止作具修」に対応する。
6 行　「天上を楽しみ」（𗥞𗥞𗥞𗥞）：漢文「多忻天樂」に対応する。

**6. 人法界**

【西夏文】

もし心，念念に善法を好み楽しみ，諸々の福の業を修め，五戒を現に持し，十善を助けるを行い，仁義礼を重んじ，論業・徳忠，常に自らをもしくは愛し，他を…楽しまず，上には恭順し，下にも配慮し，侵略しようという心は無い。彼の時は他を求め，この時は自ら集め，三宝を恭敬し，父母に孝順し，身を厭わないのを以て，諸愛貪を求める故に，人界という。

【漢文】

人法界。若其念念以五常立德。五戒修身。於國惟忠。於家惟孝。謙損居家。中正存誠。推德於人。引咎向己。尊上恤下。給孤濟貧。慚愧是懷。慈和為性。深信因果崇重三寶。精修齋戒建立塔寺。但希世樂無升出心。貪惜自身戀著眷屬。如此一念名人法界。

人法界。若し其れ念念に五常を以て德を立て，五戒もて身を修め，国においてはこれ忠，家においてはこれ孝，謙損して家に居り，中正にして誠を存し，德を人に推め，咎を引きて己に向かわしめ，上を尊び下を恤わし，孤に給し貧を済い，慚愧はこれを懐とし，慈和を性とし，深く因果を信じ，三宝を崇重し，齋戒を精修して塔寺を建立し，ただ世の楽を希ひて昇出の心なく，自身に貪着し眷属に戀着す。此の如き一念を人法界と名づく。

【注釈】

2 行　西夏文「五戒を現に持し」（𗥤𗍫𗣼𗏁）：漢文「五戒修身」に対応する。

2～3 行　西夏文「仁義礼を重んじ」（𗍊𗍬𗅋𗢳～𗢳𗏵𗢳𗍫）：漢文「五常」すなわち儒教道德における仁・義・礼・智・信に対応する。つづく「論業・德忠」がこれに含まれるか否か不明。

4 行　西夏文「上には恭順し，下にも配慮し」（𗢳𗍊𗢳𗅋）：漢文「尊上恤下」に対応する。

**7. 阿修羅界**

【西夏文】

もし心，念念に衆の善きを楽しまんと欲して布施し，修行し，常に戒を持するを為すべきである（のを），疑惑し，德・信を起こさず，他が福を修めるのを見て嫉妬心を起こし，他よりも優れんと欲し，謙譲を知ることができない。譬えるなら，鵂が高く飛び，その眼下に見る常の諍いを好み，我慢し恭敬できず，嗔恚を止めず，自ら執るのであるとさせる。この * 福（四つ）の業を行う故に修羅界という。

【漢文】

阿修羅界。若其念念雖好修善布施齋戒。而多猜嫌狐疑進退。所修福業多為勝他。見人修善情多嫉忌。貢高我慢珍己輕人。欲彼歸從不耐謙損。如鵁高飛下視。外揚仁義內無實德。眾前談論引長於我。不循理正不愧賢能。如此行心是阿修羅法界。

阿修羅界。もし其れ念念に，好みて修善・布施・齋戒すと雖も，しかも猜嫌多く，進退を狐疑し，修するところの福業，他に勝れりとなし，人の善を修するを見ては，情に多く嫉忌し，貢高我慢にして己を珍として人を軽んじ，彼をして帰従せしめんと欲し，謙損するに耐えず，鵁の高く飛びて下を視るがごとく，外に仁義を揚げるも内に實德なく，衆前にて談論しては長を引く

こと我においてし，理の正しきに循わず，賢能を愧じず。此の如き行心はこれ阿修羅法界なり。

【注釈】
西夏文は全体として漢文テキストとよく一致する。
1～2 行　西夏文「衆の善きを楽しまんと欲して布施し，修行し，常に戒を持するを為すべきである」（繿𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「雖好修善布施齋戒」に対応する。
2～3 行　西夏文「疑惑し，徳・信を起こさず」（𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「而多猜嫌狐疑進退」に対応する。
3～4 行　西夏文「他が福を修めるのを見て嫉妬心を起こし」（𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「所修福業多為勝他」に対応する。
4 行　西夏文「他よりも優れんと欲し」（𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「貢高我慢珍己輕人。欲彼歸從」に対応する。
4 行　西夏文「謙譲を知ることができない」（𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「不耐謙損」に対応する。
4～5 行　西夏文「鴆が高く飛び」（𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「如鴞高飛下視」に対応する。
5 行　西夏文「我慢し恭敬できず」（𢖍𢖍𢖍）：漢文「貢高我慢珍己輕人」に対応する。

**8. 餓鬼界**
【西夏文】
餓鬼界。もし心，念念に尊敬無く，恥無く，貪りを求め，満足できず，斎を壊し，戒に触れ，意のままに食を食べ，罪福を避けない因果を知ることができず，仏法を信じない，偽りの心が多く，常に邪見を行い，他（人）が供養・布施するのを見るを伏せない心を起こす。或いは利を得るを聞く内に嗔恚を起こし，常に貪・吝嗇が有り，布施を捨てることができず，虚ろは多く誠は少なく，怒り，偽る，故に餓鬼界という。

【漢文】
餓鬼界。若其念念無慚無愧。貪求無足慳悋鄙惜。不施一毛。剋削於人裒歸於我。見人布施傍起遮障。見人得利心生熱惱。性多諂曲常起邪見。人前正容屏處放恣。破齋犯戒恣貪飲食。不信罪福不信因果。不信三寶不孝所親。是名餓鬼法界。

餓鬼界。もしそれ念念に無慚無愧にして，貪求して足ることなく，慳悋鄙惜として一毛たりとも施さず，人を剋削して我に裒歸し，人の布施するを見ては傍らに遮障を起こし，人の利を得るを見ては心に熱悩を生じ，性は諂曲多く，常に邪見を起こす。人前にては正容たりとも，屏処にては放恣し，齋を破り戒を犯し，恣に飲食を貪り，罪福を信ぜず，因果を信ぜず，三宝を信ぜず，親とする所に孝ならず。是れを餓鬼法界と名づく。

【注釈】
1 行　西夏文「尊敬無く，恥無く」（𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「無慚無愧」に対応する。
1 行　西夏文「貪りを求め，満足できず」（𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「貪求無足」に対応する。
2 行　西夏文「斎を壊し，戒に触れ，意のままに食を食べ」（𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「破齋犯戒恣貪飲食」に対応する。
2～3 行　西夏文「罪福を避けない因果を知ることができず」（𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍𢖍）：漢文「不信

罪福不信因果」に対応する。
3 行　西夏文「仏法を信じない」（[illegible]）：漢文「不信三寶」に対応する。
3～4 行　西夏文「偽りの心が多く，常に邪見を行い」（[illegible]）：漢文「性多諂曲常起邪見」に対応する。
4 行　西夏文「他を供養・布施するのを見るを伏せない心を起こす」（[illegible]）：漢文「見人布施傍起遮障」に対応する。
5 行　西夏文「利を得るを聞く内に嗔恚を起こし」（[illegible]）：漢文「見人得利心生熱惱」に対応する。
5～6 行　西夏文「常に貪吝嗇が有り」（[illegible]）：漢文「慳恪鄙惜」に対応する。

**9．畜生界**

【西夏文】

畜生界。もし心，時々に常に五欲を観て，眷属の多きを求め，日を起こし月を増したのちまた，厭い，満足すること無く，非道を重ねる。ただ，食・財を求め，尊敬すること無く，恥は無く，財に執着し，命を失う。他（人）が善を説くことを聞いて心楽しまず，教化を受けず，因果を覚らず，善悪がわからず，礼節悉く無く，聾のように，癡者のように，畜生類と同じ故，畜生界という。

【漢文】

畜生界。若其念念耽湎五欲貪多眷屬。日增月甚而無厭足。曲理枉物斷不以公。非法取財動不由義。秖圖利己不惻孤貧。明負他財魯扈抵突。市易負直公行劫奪。不忠不孝。無賢無愚。不信因果不信三寶。癡騃無恥現同畜生。是名畜生法界。

畜生界。もしそれ念念に五欲に耽湎し，多くの眷属に貪し，日に増し月に甚だしけれども，しかも厭足するなく，理を曲げ物を枉げ，断ずるに公を以てせず，非法に財を取り，ややもすれば義に由らず，ただ己を利するを図り孤貧を惻わず，明らかに他財を負い，魯扈抵突し，市易するに直（値）に負き，公に劫奪を行い，不忠不孝，無賢無愚にして，因果を信ぜず，三寶を信ぜず，癡騃にして無恥なること現に畜生に同じ。是を畜生法界と名づく。

【注釈】

1 行　西夏文「五欲を観て」（[illegible]）：漢文「耽湎五欲」に対応する。
1～2 行　「眷属の多きを求め」（[illegible]）：漢文「貪多眷屬」に対応する。
2 行　西夏文「日を起こし月を増したのちまた，厭い，満足すること無く」（[illegible]）：漢文「日增月甚而無厭足」に対応する。
2～3 行　西夏文「非道を重ねる」（[illegible]）：文意として漢文「曲理枉物斷不以公」にあたると思われる。
3～4 行　西夏文「ただ食・財を求め，尊敬すること無く，恥は無く，財に執着し，命を失う」（[illegible]）：漢文「非法取財動不由義。秖圖利己不惻孤貧。明負他財魯扈抵突」に対応するか？
5 行　西夏文「因果を覚らず」（[illegible]）：漢文「不信因果」に対応する。
6～7 行　西夏文「聾のように，癡者のように，畜生類と同じ」（[illegible]）：漢文「癡

睽無恥現同畜生」に対応する。

**10．地獄界**

【西夏文】

地獄界。もし心，念念に貪瞋癡などの十悪，五逆，上品罪を為し，因果無しという。神の善きことを知ることができず，上下合わず，心は常に性剛，妄殺を悲しまず，家に孝行せず，国に忠義せず，常に悪業を習し，善根を断滅し，常に悪源を放ち，罪も福も知らない故に地獄界という。

【漢文】

地獄界。若人親近邪悪友。及性自作悪。起増上心。念念相續。造上品十悪。謂殺盗婬妄言綺語兩舌悪罵貪嗔邪見。及五逆罪。犯四重禁污梵行人。沽酒醉亂。不思君父師長恩德。横生熱惱挫抑賢能。黨比不肖破塔壞寺。燒毀經像謗毀大乘。斷學般若謗無諸佛。破戒受施。用三寶物。偷僧祇物。起於外道斷常諸見。破正因果三世之法。習十二種悪律儀法（一屠兒，二魁劊，三養猪，四養雞，五捕魚，六獵者，七網鳥，八捕蟒，九呪龍，十獄卒，十一盗賊，十二為王家捕賊及養蠶等業）如上等輩死墮阿鼻大熱大寒諸大地獄。是名地獄界。

地獄界。もし人，邪悪友に親近して，および性として自ら悪を作り，増上心を起こし，念念に相続し，上品十悪（謂く，殺，盗，婬，妄言，綺語，兩舌，悪罵，貪，嗔，邪見なり），及び五逆罪を造り，四重禁を犯して，梵行の人を汚し，沽酒醉乱し，君父師長に恩徳を思わず，横ざまに熱悩を生じ，賢能を挫抑し，不肖に黨比し，塔を破し寺を壊す，経像を焼毀し大乘を謗毀し，般若を学ぶを断ち，諸仏なしと謗り，破戒して施を受け，三宝物を用い，僧祇の物を偷み，外道の断常の諸見を起こし，正しき因果三世の法を破り，十二種悪律儀法を習す（一には屠兒，二には魁劊，三には養猪，四には養雞，五には捕魚，六には獵者，七には網鳥，八には捕蟒，九には呪龍，十には獄卒，十一には盗賊，十二には王家の為に賊を捕え及び養蠶等の業）。上の如き等の輩，死して阿鼻・大熱・大寒諸大地獄に堕す。これ地獄界と名づく。

【注釈】

1～4 行　西夏文「貪瞋癡などの十悪，五逆，上品罪を為し」（嶘禠厣毇戠緻俷羢羢毳緻）：「造上品十悪。（謂殺盗婬妄言綺語兩舌悪罵貪嗔邪見）及五逆罪」に対応する。

4 行　緻爰緻豹：「破正因果三世之法」に対応する。

西夏文「家に孝行せず，国に忠義せず」：漢文「君父師長に恩徳を思わず」に対応する。

**11．円一心文**

【西夏文】

円かなる一心は，円かなる鏡なり。極微の汚障と離れて，下の虚妄，万の想は空で，大通明を持する。汚・浄（の）二つの縁を隠すことができる。その十法界の差別を分けた中で，網の（ような）迷いは沈み，六俗道を成して，彼岸を悟り座し，四聖宮を超越する。金文を思えば即ち，「因果により明顕が優れることを明らかにすれば即ち，必ず善因により起こる悪果を得るときは，必ず宣べる業により見るを望む」。意が少なく短いのを見るにより，賢聖の密深を量るに非ず，帰順し一心を思うことなく，何度も三有の間を流転する。もし世に出て求めるを欲する

なら，必ずこの鏡により勤めるを以て修造すれば即ち，悩業一切皆悉く滅するのだ。『華厳経』に曰く，「心の巧みなること，匠のように，諸の世間を麗しくできる。五蘊，それに随い起こる。法は造らないことは無し」と。後また曰く，「もし人が，行い・智・義の一切を知り悟らんと欲し，法界性を観るべし。一切は心に随って為す」と。

### 3.2 各部の共通点，漢文との比較からわかること

各部に共通するフォーマットが存在し，およそ「もし人が（もし心，念念に）…する故に○○界という」のような文からなることは明らかである。

内容・構成順の近い「A. 阿修羅界」，内容は近いが構成順の異なる「B. 餓鬼界」を例にとって西夏文と漢文の比較を示す。

**A. 阿修羅界**

**西夏文和訳**

もし心，念念に，A 衆の善きを楽しまんと欲して布施し，修行し，常に戒を持するを為すべきである（のを），B 疑惑し，徳・信を起こさず，C 他が福を修めるのを見て嫉妬心を起こし，D 他よりも優れんと欲し，E 謙譲を知ることができない。譬えるなら，F 鵂が高く飛び，その眼下に見る常の諍いを好み，G 我慢し恭敬できず，嗔恚を止めず，自ら執るのであるとさせる。この*福（四つ）の業を行う故に修羅界という。

**漢文読み下し**

阿修羅界。もし其れ念念に，A 好みて修善・布施・齋戒すと雖も，B しかも猜嫌多く，進退を狐疑し，C 修するところの福業，他に勝れりとなし，人の善を修するを見ては，情に多く嫉忌し，D（G）貢高我慢にして己を珍として人を軽んじ，彼をして帰従せしめんと欲し，E 謙損するに耐えず，F 鴟の高く飛びて下を視るがごとく，外に仁義を揚げるも内に實徳なく，衆前にて談論しては長を引くこと我においてし，理の正しきに循わず，賢能を愧じず。此の如き行心はこれ阿修羅法界なり。

**B. 餓鬼界**

**西夏文和訳**

もし心，念念に，尊敬無く，恥無く，貪りを求め，満足することなく，A 斎を壊し，戒に触れ，意のままに食を食べ，罪福を避けない因果を知らず，仏法を信じない，偽りの心が多く，B 常に邪見を行い，他（人）が供養・布施するのを見るを伏せない心を起こす。或いは C 利を得るを聞く内に嗔恚を起こし，D 常に貪・吝嗇が有り，布施を捨てることができず，虚ろは多く誠は少なく，怒り，偽る，故に餓鬼界という。

**漢文読み下し**

餓鬼界。もしそれ念念に無慚無愧，貪求して足ることなく，C 慳悋鄙惜として一毛たりとも施さず。人を剋削して我に裒歸せり。D 人の利を得るを見て心に熱悩を生ず。性は諂曲多く，B 常に邪見を起こす。人前にては正容たりとも，屏処にては放恣たり。A 齋を破り，戒を犯し，恣に飲食を婪。罪福を信ぜず，因果を信ぜず，三宝を信ぜず，親とする所に孝ならず。是れ餓

鬼法界と名づく。

すると，漢文とかなり内容が近いものでも，その順序などが大きく異なることがあるとわかる。「仁義礼」は, 漢文の「五常（仁義礼智信）」に対応する。これは儒教の倫理観ではあるが, すでに智顗によって天台思想に適用されていることはよく知られている。西夏文が天台教義に則っていることの証左となろう。さらに西夏文では五常を具体的に「仁義礼」と説明する点に, 儒教文化を受容した西夏の特徴の一端が表れている。この資料が，西夏との親和性を持っていることが分かる。

## 4.「観心十法界図」における西夏語

### 4.1 仏教語彙の訳出

資料に特徴的な，西夏語語彙，特に仏教語彙を見ておきたい。

(1) 𗍊　𗤶
　$^{1}$'e:　$^{1}$genq
　自　利
　自利（声門界 04-5）
(2) 𗍊　𗤶
　$^{1}$tse:　$^{1}$genq
　他　利
　他利（声門界 04-5）

仏教漢文文献では「自利」「利他」で定訳となっているが, 西夏語の逐語訳は「自利」「他利」。これは，西夏語の「目的語－動詞」語順であり，漢語の逐語訳より西夏語の文法が優先されることが見て取れる。仏教語彙「出家」も西夏語の定訳では，逐語的には「家・出る」となる 𗥤𗏁 $^{1}$ni: $^{1}$phI:（声門界 04-1）で表されるのと同様である。

一方で，本資料中では，本来的な西夏語順「名詞－形容詞」の名詞句が見られず，𗀀𗅋 $^{2}$ny'yon $^{1}$kuq「悪源」（地獄界 10-11），𗍫𗏵𗍊 $^{2}$tha $^{2}$myeqr' $^{1}$sweu「大通明」（円一心文 11-2）のような「形容詞－名詞」という，漢語の影響が考えられる語順のみが見られる。

### 4.2 資料に特徴的な西夏語の文法

#### 4.2.1 否定辞の使い分け

資料中，否定接頭辞は，一般的な否定 𗍔 $^{1}$mi: が 18 回，先行研究で「可能性の否定」（西田 1989: 416 など）と言われる 𗍔 $^{1}$mI: が 8 回出現する。全く同じ動詞で，両方と共起する例は見られない。𗍔 $^{1}$mI: が動詞に先行する動詞は次のものである。

𗍔 $^{2}$se:「識る」，𗍔 $^{1}$geu:「恭敬する」，𗍔 $^{?}$lhe?「満足する」，𗍔 $^{1}$nwI「知る」

組み合わさる動詞は「知る」「識る」など，多少の傾向が見いだせるものの，同様な「心的な活動・状態の動詞」，𗍔 $^{1}$ngwi「楽しむ」，𗍔 $^{1}$dwIr「厭う」，𗍔 $^{1}$dzu $^{1}$ngwi「愛楽する」が𗍔 $^{1}$mi: と共起する例も見られるため，動詞の意味による共起制約とは考えがたい。

否定辞が動詞語幹と助動詞の間に出現する例も確認できた。

(3) 𗍫　𗦳　𗥤　𗍊
$^{1}$mi:’　$^{1}$jyIr　$^{1}$mI:　$^{2}$nwi:
布施　捨てる　Neg　できる
布施を捨てることができず（餓鬼界 09-6）

本テキストにおける否定辭の使い分けは，動詞との共起制限というよりも，文脈上の否定のニュアンスの差異と考えられる。

### 4.2.2 完了態としての「方向接辭」

文中で動詞接頭辭（いわゆる「接頭辭 1」という系列に属するもの）が 4 例確認できる。文脈から，その表す意味はいずれも「動作の完了」と解釈できる。6 種の接頭辭 1 のうち確認できるのは 2 種のみである。何に起因するのか確定することは難しいが，𗹨 $^{2}$wI: が 3 例，𗾔 $^{2}$da: が 1 例とやや偏りがある。

(4) 𗢭　𗼇　𗟭　𗹬　𗢞　𗹨　𗥞
$^{2}$zi:　$^{1}$zyIr　$^{1}$la’　$^{2}$jwI:　$^{2}$ri:r　$^{2}$wI:　$^{2}$ka
最　少　汚染　妨げ　と　P1　離
極微の汚障と離れて，（円一心文 11-1）
(5) 𗍩　𗦳　𗥤　𗾔　𗥞
$^{1}$cheu:　$^{1}$mur　$^{1}$ca:　$^{2}$da:　$^{1}$shyen
六　俗　道　P1　成す
六俗道を成して，（円一心文 11-4）

少ない例数ではあるものの後続する動詞を挙げれば，𗹨 $^{2}$wI: に後続 :「得る」「離れる」「分かつ」，𗾔 $^{2}$da: に後続 :「成す」となる。Arakawa 2012: 63[31] におけるような傾向を導き出すのに十分な例数とはいえない。ただし先行研究のうち，西田 1989: 418 の提案する𗹨 $^{2}$wI: の本来の方向指示「あちらの方へ（話者から離れて）」と，本資料の動詞の傾向は比較的合致している。

## 5. おわりに

西夏「観心十法界図」は西夏語テキスト部分こそ完全なものでは無いものの，図像のテーマや配置の順序は明瞭なものにできる。かつて図録に掲載されたキャプションや先行研究は若干修正を要する。

本稿では現存するテキストについて，文字をほぼ判読し，訳注を付すことができた。それをもとに「円頓観心十法界図」の漢文テキストと比較検証を行った。テキストの内容は既存の漢文とは完全に対応するものではないものの，個々の表現から，おそらく別の漢文からの訳かと考えられる。仏教語彙だけでなく，儒教的な漢文化に基づく語彙も見られる点も確認することが出来た。言語学的には，否定辭の用法，接頭辭と動詞の共起の状況などが興味深い点といえる。

31）𗹨 $^{2}$wI:（に後続）: go out, send, go over, stop…，𗾔 $^{2}$da:（に後続）: lose, throw away, give (way), damage…

**文法要素略号**

CM：格標識，Dem：指示詞，Neg：否定辞，P1：接頭辞 1，TM：主題標識

## 参　考　文　献


Arakawa, Shintaro. 2012. “On the Tangut Verb Prefixes in ‘Tiansheng Code’.” *Тангуты в Центральной Азии: Сборник статей в честь 80-летия профессора Е. И. Кычанова*, 58-71, Москва, Издательская фирма «Восточная литература».

荒川慎太郎　2014 『西夏文金剛経の研究』，松香堂。

橘堂晃一・荒川慎太郎　forthcoming 「「観心十法界図」をめぐる新研究―西夏とウイグルの事例を中心に―」『國華』1477 号。

李範文（編） 1997 『夏漢字典』，北京：中国社会科学出版社（増補修正本 2008）。

西田龍雄　1989 「西夏語」亀井孝他（編）『言語学大辞典　第2巻　世界言語編（中）』, 408–429, 三省堂 {西田 2012 に修正再録}。

――――　2012 『西夏語研究新論』，松香堂。

Кий, Е. А. 2012. “Тангутский иллюстрированный ксилограф из собрания Государственного Эрмитажа (к определению китайского источника).” *Тангуты в Центральной Азии: Сборник статей в честь 80-летия профессора Е. И. Кычанова*, 137–146, Москва, Издательская фирма «Восточная литература».

Самосюк, К. Ф. 2008a. “Экспедиция П.К. Козлова в Хара-Хото 1907–1909гг.” *Пещеры тысячи будд. Российские экспедиции на Шелковом пути. К 190-летию Азиатского музея: Каталог выставки*, 313–314, СПб.: Издательство Государственного Эрмитажа.

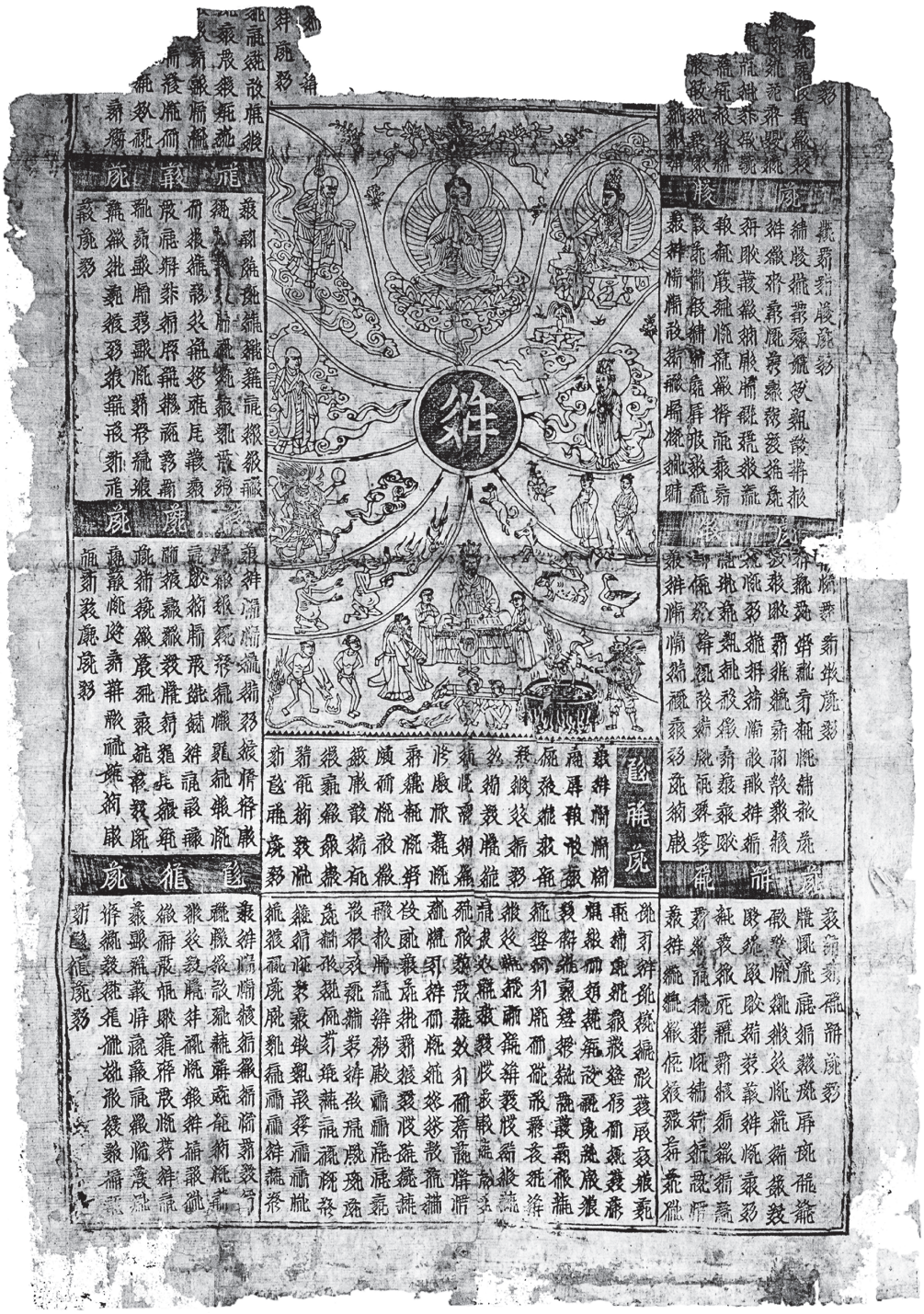
――――. 2008b. “Искусство Хара-Хото.” *Пещеры тысячи будд. Российские экспедиции на Шелковом пути. К 190-летию Азиатского музея: Каталог выставки*, 315–317, СПб.: Издательство Государственного Эрмитажа.

――――. 2008c. “245. Будда, бодхисаттвы Кшитигарбха и Авалокитешвара. Шесть путей перерождения.” *Пещеры тысячи будд. Российские экспедиции на Шелковом пути. К 190-летию Азиатского музея: Каталог выставки*, 362, СПб.: Издательство Государственного Эрмитажа.


※本報告は，科研費（基盤 B 課題番号 25580087）「「方向接辞」からみたチベット・ビルマ語系言語の諸相」（代表：荒川慎太郎），ならびに科研費（基盤 B 課題番号 17H02401）「古代・中世中央ユーラシア世界の交通・交易・交流」（代表：松井太）の研究成果の一部である。2017 年 7 月，資料について各種のご教示を直接授けてくださった，Самосюк 先生にも深くお礼申し上げる。

採択決定日―**2018** 年 **5** 月 **17** 日

**写真図版**



*Пещеры тысячи будд. Российские экспедиции на Шелковом пути. К 190-летию Азиатского музея: Каталог выставки* p. 314 より